

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視する。社会の一員として、生涯と通し知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指し、成長の礎を築く。さらに、あたたかな学習集団を育み、学んだことを必要なときに使い、未来を切り拓いていく児童の育成を図る。

【○ゆたかな子 ○かながえる子 ○つよい子】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|---|
| ○学校像 | ○子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にしている学校 ○保護者・地域から「おらが学校」として信頼され共に子供を育成する学校 |
| ○児童・生徒像 | ○新しいことに挑戦し、失敗からも学び、やりきることのできる子供 ○明るくいきいきと自己表現する子供 ○思いやりの心を持ち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供 ○人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供 |
| ○教師像 | ○子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○子供のよさや失敗を認め、励まし、子供の学びにつなげることのできる教師 ○温かな学習集団を創り日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師 ○学校運営やP T A、地域行事に進んで取り組む教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- ・令和6年度は、1、2年生が1学級、3～6年生が2学級、ひまわり2学級の全12学級の編成。児童数は近年減少傾向にあり、令和7年度は新1年生が38名の久しぶりの2学級のスタートになった。令和7年度は全校児童269名でスタートした。
- ・小規模のよさを生かし、1年生からの少人数算数授業の実施、あたたかな学習集団づくりを継続的に取り組んできている。落ち着いた雰囲気の中で、基礎学力が身につく、学びに向かう児童が育成できている。学んだことは必要なときに使えることを目指し、授業、教育活動に臨んでいる。また、ひまわり学級（特別支援学級）、たんぽぽ（コミュニケーションの教室）の教育活動の充実を図り、様々な取組を共に、インクルーシブな教育活動を学校全体で行っている。
- ・令和6年11月には創立80周年記念式典・祝賀会等が地域の皆様のご協力で行うことができた。令和6年度は体育館照明のLED化、校庭の照明の設置工事が行われ、令和7年度、門扉、外柵の改修工事を行う予定である。

2 成果と課題

【成果】

「梅二小学習スタンダード」「梅二小生活スタンダード」の学習と生活指導の両輪で、学びに向かう朝のルーティーンを作ってきた。学びに向かう児童、学習規律が整ってきてきた。1学年35人 2学年30人の1クラス、3年生以上は25人前後の2クラスの少人数で、あたたかな学習集団の中で取組を行ってきた。また、4月実施の区学力調査を受け、SP表を作成し分析を行った。学校全体2教科で昨年度に引き続き通過率が80%を超えたが、2学年は国語通過率が60.7%、5年・6年の算数がおおよそ70%と課題があった。2年生では日常の授業等を通して、文字を丁寧に書くこと、

ノート指導、文字と意味を繋げる、書き表す等、学びの基礎を身につけさせるための指導を行った。結果、2月に実施した区の学力調査問題（自学年）の通過率は国語 94.2%、算数 85.0%、2教科 89.5%であった。昨年度に引き続き学校全体では2教科で80%を超えるようになってきている。

【課題】

- ・学力向上に関して、基礎的な力が次第についてきている。が、算数では、計算の決まりの活用、割合等個別に補充する必要がある。さらに、学んだことをもとに考えたり、表現したり、交流の質を向上させたりすることが課題である。
- ・AIドリルの活用等ICTの活用、情報モラル
- ・特別支援教育、不登校（登校渋り）対策
- ・魅力ある学校づくり

【対策】

- ・低学年での学びの基礎を身につけさせる。（かな文字の読み書き MIMアセスメントの活用） ノート指導 音読指導
- ・文字を言葉のまとまりとして捉えて書くことに慣れる。（MIM 視写の活用）
- ・つまずきの解消（1年生から算数習熟度別指導 放課後補充指導 AIドリル等の活用 サマースクールの活用）
- ・家庭との連携（月1回の家庭学習奨励期間 自主学習の奨励）

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） R:令和 | | | | |
|---|------------------------------------|---------------|-----|-----|-----|-----|
| | | R 5 | R 6 | R 7 | R 8 | R 9 |
| 1 | 学力向上アクションプラン（必要なときに使える学力の基礎を身につける） | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 2 | 個の尊重とあたたかな人間関係の育成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 体力の向上と健康・安全 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

5 令和7年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン（必要なときに使える学力の基礎を身につける） | | | |
|---------------------------------|---|---|--|--|-------------|
| A 今年度の成果目標 | 達成基準 （目標通過率） | 実施結果 （通過率結果） | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● |
| 足立区学力調査の目標とする通過率の向上と正答率の向上を目指す。 | 区学力調査の目標通過率の目標を学校全体で80%を目指す。正答率：低学年（80%）高学年（70%）を目指す。 | 2月の自学年問題実施では学校全体で目標値を超えた児童88.9% 正答率はおよそ80%であった。 | ・必要なときに使える力を身につけることを提唱してきている。学校全体で基礎的な力を付けてきている。高学年でも低く高が本校の特色である。 | | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |

| 新規・継続 | アクションプラン | 対象学年 実施教科 | 頻度・ 実施時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認 方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
|---------|---------------------------------|--------------------|-------------|--|------------------------------------|--|---|---|-------------|
| 1 新規 | 授業の充実 | 全学年 国語科・算 数科 | 通年 | ・足立スタグートの推進（用語 の活用・虎の巻の活用） ・振り返りの重視（書いて まとめる） ・ICTの活用 | 区学力調査問 題 単元テスト | 目標値達成 国語 80%以上 算数 80%以上 | 単元テスト 国語 81.1% 算数 79.5% プレゼンソフトや Padlet 等のソフトを活用 | 全校で国語と算数を 合わせると 80%は達 成できた。 国語は中学、算数は 4・6年に課題がある。 | ○ |
| 2 継続 | 主体的・対話 的な学習ので きる集団づく り | 全学年 道徳科 特別活動 | 通年 | ・Hyper-QU (Web) の活用 学びの中心となる学級の あたたかな学習集団づく り ・学年で分析・工夫改善 | 年2回の Hyper-QU の実 施 満足群の増加 | 満足群半数以上 | WEBQU を年2回実施 満足群6割 4ポイン ト増加 親和型学級 7割に増 加 | 一人学びの後、ペア、 グループでの話し合 い活動がスムーズに できた | ○ |
| 3 継続 | 習熟度別指導 授業 ・補充 | 全学年 算数科 | 授業時間 放課後 | 1年：週4時間 2年以上 週5時間の習熟度別指導 週2回放課後補充教室 | 単元テストお よびベーシッ クドリル | 80%以上の児童が 単元テストで 80 点以上 | 低学年・5年生が達成 できた。4年6年は習 熟に課題がある。 | 週2回の補充教室を副 担任とともに実施し た。基礎の徹底が必要 | ○ |
| 4 継続 | ICT 機器・タ ブレット等の 活用 | 全学年 全教科 | 通年 | ・交流のツールとしての活 用 AIドリル(読解・漢字学習も)、 適所で ICT 機器の活用 ・計算の習熟・漢字の読み や意味調べ・調べ学習 | 週案 アクセス数等 | タブレット・AI ドリ ル等 ICT 機器の 活用数2回/日以 上 | Padlet 等のソフトを 活用 高学年で意見 交流等が活発になっ た。 | 大型ディスプレイの 活用、国語・算数だ けでなく音楽、図工、 体育での活用が進ん だ。 | △ |
| 5 継続 | タブレットの 文字入力 | 高学年 国語科・総 合 | 通年 | タイピングソフトの活用 ローマ字入力 | 文字入力数 | 3分間で80文字 以上達成 | キーボー島18級以上 が高学年の4割 | 詰まる音節等タイピ ングには課題があ る。 | △ |
| 6 継続 | 読みの基礎の 定着 | 1学年 国語科 | 通年 | MIMの活用 特殊音節の読みに焦点 | MIMアセスメント | 3rdステージ 0 | 語彙力はついてきて いるが、3rdステージの 児童が複数人残っ た。 | 拗音、促音など特殊 音節も自力で使える ように指導を継続し ていく。 | △ |

| | | | | | | | | | |
|---------|--------------------|-------------------|-------------|--|-----------------|-----------------|---|--|---|
| 7 継続 | 朝学習 (パワーアップタイム) | 全学年 国語 算数 | 週3回 10分間 | 3分間視写 読書 計算 読解ドリル等 | 視写ファイル 等 | 視写速度等の向上・定着 | 前期に読解ドリル、後期に視写に取り組んだ。低学年60字 チュ高学年150字程度の文字数であった。視写速度は落ちてきた。 | 書くことを苦にしない児童であるが、打って書くことの両立で視写の速度が落ちてきている。 | △ |
| 8 新規 | 学校図書館の活用 | 全学年 国語科・ 総合 | 通年 | 司書教諭、図書館支援員を活用し、調べる学習で学校図書館の利用、国語の学習と読書の推進 | 調べる学習コンクール参加者の増 | 調べる学習コンクール参加者の増 | スーパーハイパーの研修会・授業を2度実施した。学校図書館の利用が向上した。 | 学校図書館からの積極的な発信（取組の発信 学級への貸し出し 分室の設置） | ○ |

| | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|--|---|---|--|--|------------|------------|
| 重点的な取組事項－2 | | 個の尊重とあたたかな人間関係の育成 | | | | | | | |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | | 実施結果 | | コメント・課題 | | 達成度 | |
| 自分の心との対話の育成 道徳教育の充実 感謝の気持ちの醸成 | | 児童アンケート調査 (7月 12月の計2回実施) ・「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好な友達関係」4段階のB以上90%以上 | | アンケートより「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好な友達関係」とともに90%超の良好な人間関係の育成ができた。 | | 様々な取組を通し、自己を振り返り、自律できる児童が増えてきている。継続と醸成 | | ○ | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | | 具体的な方策 | | 実施結果 | | コメント・課題 | | 達成度 |
| 道徳科の授業の充実 | ・道徳教育の要として道徳の授業の改善・充実 | | ・ポートフォリオの活用（全学年）ICT機器の活用 ・「思いやり」「生命尊重」の項目の重点的な扱い | | 年35回の授業を実施した。振り返りカードをファイリングして自己の心のブラッシュアップを図った。高学年はタブレットを活用、意見の交流、振り返り等に活用した。 | | 道徳授業に向け。校内で道徳のミニ研修会を実施した。道徳授業地区公開講座等で生かすとともに、地域や・保護者の皆様に見てもらうことができた。 | | ○ |
| 「言葉は心」 挨拶・あたたかな言葉遣いと返事の励行 | ・児童アンケート調査 「挨拶」「正しい言葉遣い」B以上90%以上 | | ・生活指導目標・言葉の月目標について具体的指導の実施 ・あたたかな言葉遣い、文で話す指導（～です。～ます。を基本） | | 正しい言葉遣いができる95%超である。 授業中は「～です。～ます。」と文で答える児童が増えてきた。 | | 休み時間、放課後等で乱暴なことばが聞こえるときがあった。継続して指導して一人たが必要である。 | | △ |

| | | | | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|---|---|---|
| 自尊感情・規範意識 思いやりの心の育成 | ・児童のアンケート調 「良好な友人関係」B 以上 90%以上 | ・アンケート・SST の活用 ・フェルマータ・タイムの活用 自分の行動や心の振り返り の対話の時間を設ける。 ・特別支援教育個別の手法の 共有 校内委員会 (月 1 回) | フェルマータ・タイムの好評価は 90%超。 自己を振り返る落ち着いた時間を 過ごすことができた。 校内委員会を月 1 回実施した。支 援が必要な児童の情報共有、手法 を共有し、通常が急にも活用した。 | 学校の「動」の中に「静」 を創ることができた。 どの学年・学級も落ち 着いて学びに迎えこと ができるようになって きた。 | ○ |
|------------------------|--------------------------------------|--|---|---|---|

| 重点的な取組事項－3 | | 体力の向上と健康・安全 | | | |
|--|--|--|--|---|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 心身ともに健康な児童の育成 運動に取り込む意欲や気持ちをコント ロールし最後までやり遂げる児童の育成 児童の安全意識の向上 | | ・生活調査アンケート「早寝」80%「早 起き」90%「朝ご飯」98% | 長期休業明けには、学校の生活リ ス無をとりも同ための取組を行っ た。高学年に行くほど早寝ができ る割合が下がる傾向にある | 中学年から早寝に課題 が出てきている。各家 庭の協力が必要であ る。 | △ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 落ち着いた生活習慣の 確立 | ・登校、朝の時間のルーティン づくり 「早寝」80%以上「早起き」 90%以上「朝ご飯」98%以上 | ・基本的な生活習慣、授業規律、 名札の着用、手洗い・うがい等の 指導を通し学習に向かうルーティン をつくる。 ・フェルマータ・タイムの活用 学習に向けた午後の落ち着いた 生活習慣づくり | 「梅二小学習・生活スタンダード」 チェック表を活用し、夏休み前ま でに、学習に向かうルーティン づくりができた。また、フェルマ ータ・タイムの活用で、1 日を通 して落ち着いた生活ができた。 | 校内でのトラブルの減 少につながった。 放課後、校外でのよい 生活習慣作りが課題で ある。 | ○ |
| 体力の向上 | ・体育科の実践、外遊びの 励行 ・姿勢・体幹・学習体力を 意識した取組 | ・多様な動きをつくる運動を年間 計画に組み込む。 ・業間の活用 (児童教員と共に活 動・場の工夫) ・姿勢の保持 | 年間を通して、業間の看護ととも に全教員が児童と校庭で活動し児 童の体力向上に取り組んだ。 持久走では、自分のペースをつか みどの児童も最後まで走りきるこ とができるようになった。 | 夏季の熱中症対策と運 動・体力の向上の取組 が課題である。 体力向上の取組が、後 半になってしまう傾向 がある。 | △ |

| | | | | | |
|------------|--|--|--|---|---|
| 健康教育と食育の推進 | ・食育の授業「もりもりウィーク」の実施 | ・保健指導、保健だより等を活用し、家庭との連携・自己評価による早寝・早起き・朝ご飯の習慣化 ・「給食だより（月1回）」「郷土食」「もりもり給食ウィーク（年3回）」等食育の推進 | ・保健だよりを毎月発行、健康の維持向上を啓発。感染症流行時に学級閉鎖等なし。 ・「郷土食」「メニューコンクール」小松菜生産者の農場見学など食に関心を持つ取組を通し食育を実施した。 | ・早寝・早起きに課題さらなる家庭との連携が必要。 | ○ |
| 安全・防災教育の推進 | ・環境の変化・想定範囲を拡張した避難訓練の実施（諸機関との連携） ・安全指導の実施 | ・諸機関との連携、地震、水害、不審者対応訓練等の実施 ・水害時マイタイムラインの活用 ・アレルギー対応訓練（年度初め） ・自ら危険予測、危険回避能力の育成 | ・地元消防署、区災害対策課とも連携し、垂直避難も入れ月1回の避難訓練を実施した。 ・年度はじめにアレルギー対応訓練を実施した。栄養士とも連携しアレルギー事故なし。 | ・落ち着いて素早く避難ができ、命を守る行動ができています。 夏季において熱中症対策との兼ね合いが課題である。 | ○ |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

「梅二小学習スタンダード」「梅二小生活スタンダード」の学習と生活指導の両輪・ノート指導、学びに向かう朝のルーティーンを作ってきた。学びに向かう児童、学習規律が整ってきていった。昨年度と比較するとどの学年も数ポイントずつ通過率が上回っている。特に3年生の国語は通過率90.3%で昨年と比較すると30ポイント近く上回った。書いて伝えることを重点に指導してきた成果の一つである。

【課題】・6年生の国語と算数に関しては、通過率がそれぞれ77.6%、73.5%と昨年度と横ばい状況で80ポイントを下回っている。国語の正答率は伸びてきているが、算数は10ポイント近く下回った。文意を理解し、論理的に考え、立式答えを導き出す根気強さ習熟に課題がある。

【対策】

算数では、問いの文を見つけさせ、問題と解くために必要な情報にアンダーラインを引かせる、図や数直線等に表すなどの指導をする。

5年生の内容での躓きのため、2期より5年生も3名の枠で対象に入れそだち指導を行っている。

国語では叙述をもとに考えさせるためにサイドラインを引かせるとともに、段落ごとに要約させたり、指定した語句を入れて自分の考えを書く活動を取り入れる。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

・梅島第二小学校は、日常の教育活動を通して「ゆたかな子」「かんがえる子」「つよい子」の3つを教育目標に、学んだことは必要なときに使える児童の育成を目指しています。

(3) その他（学校教育活動全般について）

・学ぶことが楽しい学校をつくっていきます。

・児童が、「新しいことの挑戦し、失敗からも学ぶこと」「成長できるというマインド」をさらに育てていきます。

・特別支援教育、不登校（登校渋り）対策を図っていきます。

